

第10回新聞感想文コンクール

文部科学大臣賞 中学生の部



「守れる命、守りたい命、私達の手で」

常総市立石下西中3年 梅澤 花怜

近年、あまりの凄惨さに心が痛む、ショッキングなニュースが多い。虐待内容を知り、私は手が震えて胸が苦しくなる。私は毎朝、両親とのコミュニケーションも兼ねて、新聞を見ることにしている。政治・経済・スポーツや地元紙もある中、目に付くのが「虐待」の二文字だ。両親は、「可哀想すぎて、胸が痛んで仕方がないな。」と言葉を詰まらせ、母は涙ぐみ、顔を覆う。

児童虐待の相談と通告件数は、年間十五万件以上で、二〇二〇年までの虐待数は、五十一万件超である。この数はなぜ減らないのか。児童相談所自体が、虐待の認知を逃したり、対応に追われ、結果的に、守れる命も守れない現状なのだ。虐待では、特に母親が多いのだが、母親というものは、自分が苦しさや辛さを我慢して、やっと産んだ我が子なのに、なぜ虐待ができるのか、不思議で仕方がない。子供は、親に愛されたことで、愛してもらいたくて、ぎゅっと抱きしめて欲しい一杯だ。今回取り上げた記事で、五歳の女の子が虐待され、SOSを出したにも関わらず亡くなった事件。女の子が書き残したSOSのノート。「もうおねがい。ゆるして。ゆるして。だいたい。あしたはもっとできるといふようにするから……」私は、胸が苦しく、涙が止まらなかった。親には親の気持ちがあり、思い通りに行か

記事読み、広がる視野

初の文科大臣賞に4人

あす、水戸で表彰式

茨城新聞社が主催する令和元年度「新聞感想文コンクール」の表彰式が15日、水戸市三の丸の県立図書館で開かれる。本年度は第10回の節目を記念し、文部科学大臣賞を創設、4人が選ばれた。新聞は家庭で読まれるだけでなく、教育現場で活用の輪が広がっている。児童生徒たちは記事を読むことで、視野が拡大。文字に表すことで、若い素直な気持ちが永遠に刻まれる。



第10回新聞感想文コンクールの最終審査会=2019年12月9日、水戸市内

コンクールは本年度、文部科学大臣賞を創設したほか、これまでの小学生3部門に加え、高校生の部を新設した。審査に当たっては、教育団体の協力を得て、1次・2次学校単位だけでなく、個人で審査を実施。小学1〜3年▽小学4〜6年▽中学生▽高校生1の4部門ごとに、個人を

対象とした文科大臣賞や茨城県知事賞、茨城県教育長賞、茨城新聞社長賞、茨城新聞奨励賞など九つの特別賞と優秀賞を選んだ。熱心な取り組みが認められた学校に贈る学校賞、学校奨励賞も選定した。文部科学大臣賞の受賞作品は、思いやりや命の大切さ、原発問題、新聞の重要性などを子どもたちの素直な視点で表現した。コンクールは、茨城新聞の創刊120周年を記念し、2010年度に始まった。茨城新聞を取り扱う新聞販売店をつくる茨城新聞茨城会(山本恒会長)とともに主催している。

文部科学大臣賞 小学1〜3年の部

「エスカレーター、思いやりのり方は？」



桜川市立岩瀬小3年 中田 実里

みなさんは、エスカレーターにのるとき、どんなふうのりますか？わたしは、左がわにのり止まります。前に東京に行ったとき、みんな左がわにのりていたので、以来まねしていません。右がわは、スイスイ階段みたいなのに人がのぼっています。このり方を片がわ空け」と言っています。記事を読んで、わたしは、自分自身を見直して、お母さんと話し合いました。

のある人が、手助けがなくても、自分のことを考えて行動すれば思いやりのり方が広がっていくと思います。新聞を読んで、初めて知ったことがたくさんありました。東京では右がわ空け、大さかでは左がわ空けなのだそうです。同じ日本なのに、ふしぎでおもしろいなと思いました。今年の東京オリンピック・パラリンピックまでに、片がわ空けをなくして、みんなが自由にのりていきたいと思います。世界中からたくさんのお客さんが来ます。体が不自由な人や赤ちゃん、高齢い人もいます。だれもが安心してエスカレーターにのれるように、わたしも二れつで立ち止まっていたりします。

文部科学大臣賞 小学4〜6年の部

「福島第一原子力発電について」



日立市立榎形小6年 渡辺 優華

東日本大震災から約八年が経とうとしています。原子力発電所の事故も今は風化し始め、ニュースでも取り上げられる事も減ってきているように感じます。今回、デブリ除去の記事を読んで、原子力の事故はまだ終息していないとあらためて感じました。なぜかと言つと、二

事ばかりですが、原子力エネルギーを使って生活している私達は、原子力について良い点や悪い点を、もしも場合の対処の仕方、東日本大震災での事故後の罪のなすり合い、自分にはよく分からないからどうでもいなどといった考え方をあらためて、もう一度この問題と向き合おうべきなんだと私は思います。よりよい暮らしを求めればそれなりのリスクがともなう事、何年か先の未来の事、私達は目の前のものにとらわれてしまいがちですが、一度立ち止まって冷静に自分達の未来の事を考えるのが大切だと思います。

文部科学大臣賞 高校生の部

「遠い世界への案内人」

県立古河中等教育学校4年次 小森谷 蓮夏



「漁船転覆サンマ不漁の末に」第一面に書かれたその大きな文字は私の心を引きつけた。九月十七日。悲しい事故が起きた。北海道根室市の納沙布岬沖でサンマ漁船が転覆。船員八人中一人死亡七人行方不明。胸が裂けるような思いでこの記事を読んだ。不運だった。最初はそう思ったが、読んでいくうちに、これは単なる不慮の事故ではない、防げる事故かもしれない、と考えるようになった。この転覆事故と環境問題、社会問題は密接な関わりがあるのかも、問題が私に近づいてきた。新聞が私に近づいてくれた。世界を近づけてくれる新聞をこれから読み続け、様々なことについて自分の考えを深めたいと改めて思った。まさに新聞は遠い世界案内人だ。

電子書籍版ができました

茨城国体2019 報道写真集

茨城新聞社 288ページ・オールカラー 2,000円(税別)

Kindle ストア で配信中

総力取材 総合開会式・閉会式、国体の全種目を一冊に。選手の活躍を全ページ迫力のオールカラーで！巻末には茨城県選手団全選手顔写真付き名鑑も。

お問い合わせは… 茨城新聞社 営業局 e-mail syuppan@ibaraki-np.co.jp

